

「柏崎の水」

あげわ なついで 上輪の夏井の清水

国道8号線を柏崎から柿崎方面へ向う。上輪新田から^{はらいがわ}弘川上空に架かる上輪橋を渡ると、左に^{よなひめじんじしゃそう}胞姫神社社叢があり、次の胞姫橋を渡ると間もなく“夏井の清水”^{みなくち}の水口がある。旧道は、谷底までを迂回し断崖絶壁を這うように登る米山峠の難所であったが、昭和40年に米山トンネルや上輪橋が完成したことにより、国道は面目を一新した所である。しかし、湧き水は国道により分断され、いったん道下をくぐり、断崖から日本海へと落ちている。水口には「飲用不可」の表示があるが、かつてはこの地の耕作水であった。また、往昔には米山三里²⁾を通った旅人、芭蕉^{じっぺんしゃいっく}や十返舎一九たちの口をうるおしたことであろう。

ここに、紺碧の海を背にして山の清水を望むように“井泉水句碑”^{せいせんすいこひ}が建てられている。“夏井の清水”は柏崎の伝説集の中に見えないが、この碑の建立については、多くの人々のうるわしい善意と熱意に彩られた、次のような物語がある

昭和51年3月23日の柏崎日報第1面に、「“幻の句碑”今ぞ建つ」とセンセーショナルな見出しの記事が載っている。当時の新聞¹⁾⁻⁴⁾などから次のようないきさつがうかがえる。

荻原井泉水^{おぎわらせいせんすい}(1884~1976)氏が越後を旅した時、上輪の清水のほとりに建てる句碑を依頼されて引き受けたことが、昭和31年の9月に発行された氏の雑誌「隋」に記されていたが、依頼者は記されていなかった。井泉水氏の友人であった北条俳壇の指導者、五十嵐牛詰^{ごゆうてつ5)6)}(1882~1965)氏は、亡くなる3年前の昭和39年に、弟子と碑を捜索したが見つからなかった。このとき同行していた高橋路人^{たかはし りじん}(国市)氏が、昭和50年に図書館で



国道8号線上輪から胞姫橋(柏崎方面)を望む。右の湧きは道路下をくぐり、左の崖下にある句碑を通して日本海へ落ちる。

夏井の清水・井泉水句碑所在地



行われた郷土史研究会の講演の席でこの事を話した。この話を聞いた三宮勉氏は、山田良平氏に相談して、昭和50年2月に3回にわたって「井泉水の句碑何処に」を柏崎日報に寄稿した。これが反響を呼び、依頼者が判明した。依頼者は上輪出身の平野耕作氏であり、建立の悲願を実現できないまま他界し、その遺族の方が句稿を大切に保存していることがわかった。その後、いきさつを知った上輪町民や多くの人々により、句碑建立が達成されたのである。

「泉あり 青空は 手にして いただく 井泉水」

実名を記した方々はすでに他界し、泉も姿を変えているが、残る句碑は人々の尽力を静かに物語っている。

参考文献

- | | | | | | |
|--------------|---------|--------------|---------------|-----------|-----------|
| 1)「新潟県大百科事典」 | 新潟日報事業社 | 1984 | 5)「月刊春秋」 | 前沢潤 | 1986.9.15 |
| 2)「新潟県民百科事典」 | 野島出版 | 1977 | 6)「柏崎日報」新年特別号 | 柏崎日报社 | 1989.1.1 |
| 3)「柏崎日報」 | 三宮勉 | 1975.2.18-20 | 7)「柏崎の先人たち」 | 柏崎市 | 2002 |
| 4)「柏崎日報」 | 柏崎日报社 | 1976.3.23 | 8)「北条町史」 | 北条町史編纂委員会 | 1971 |